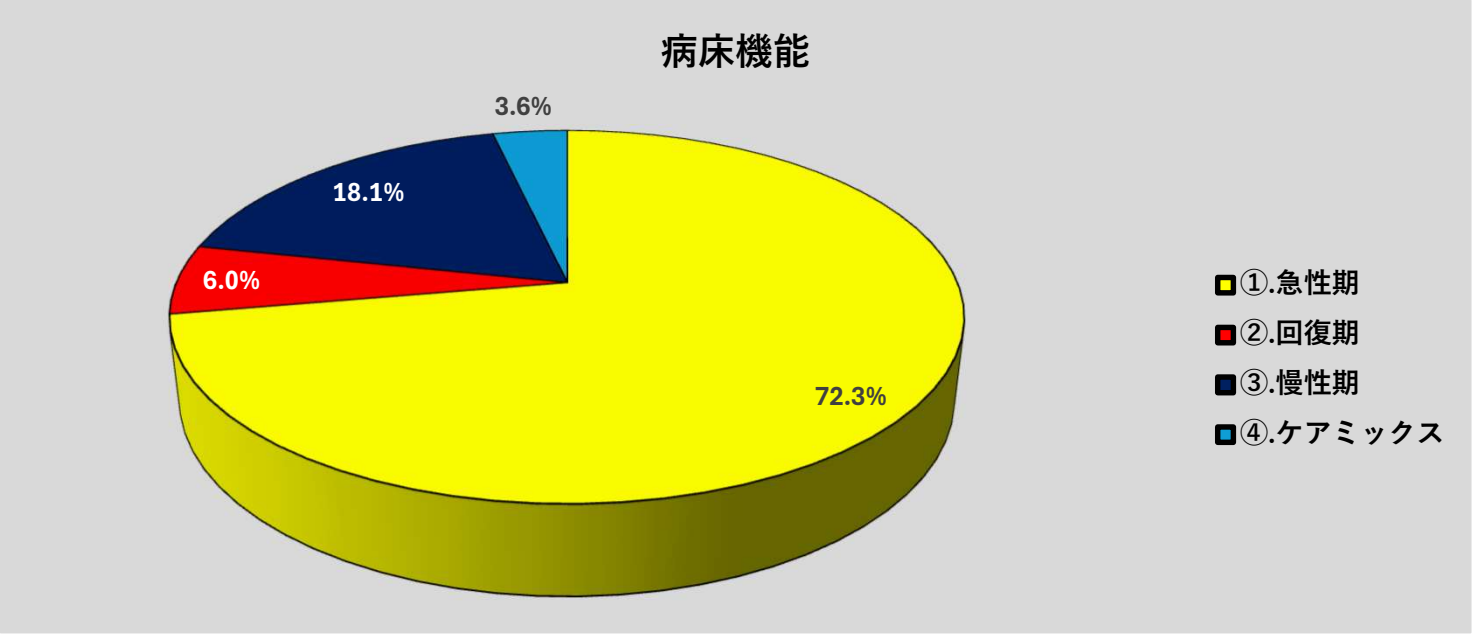
医薬品・特定保険医療材料等の購入に係る消費税アンケート（有床診療所）

アンケート送付件数		アンケート返答件数		アンケート回収率	
有床診療所	**303件**	有床診療所	**85件**	有床診療所	**28.1%**

（休床中3件含む）

2.病床機能

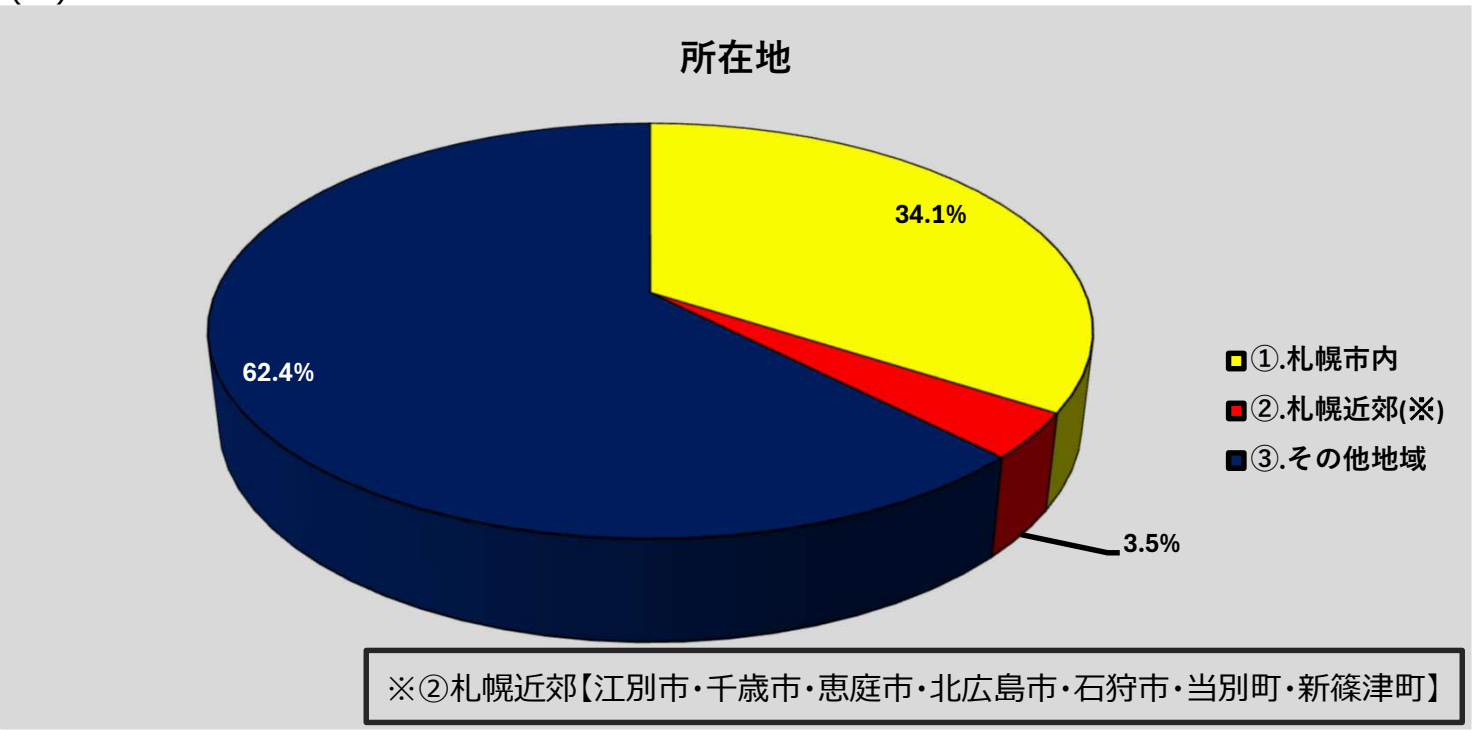
①.急性期	72.3%
②.回復期	6.0%
③.慢性期	18.1%
④.ケアミックス	3.6%



3.所在地

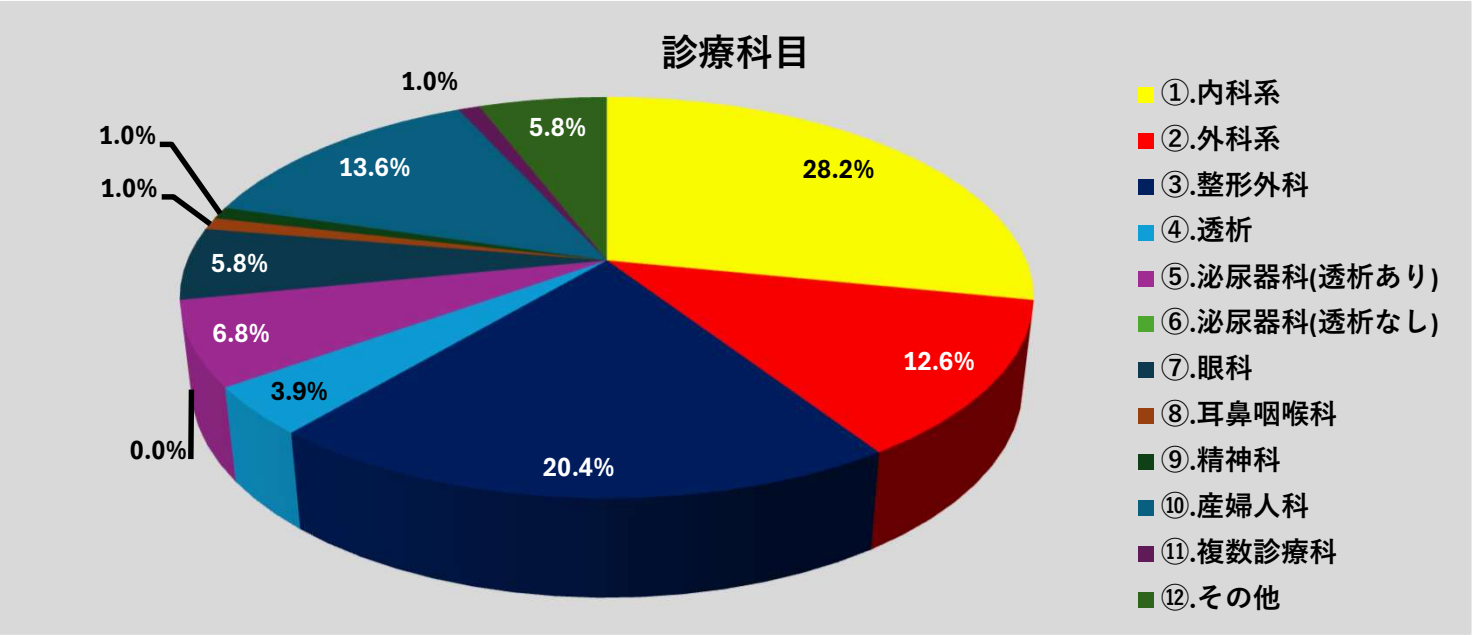
①.札幌市内	34.1%
②.札幌近郊(※)	3.5%
③.その他地域	62.4%

(※)札幌近郊【江別市・千歳市・恵庭市・北広島市・石狩市・当別町・新篠津町】



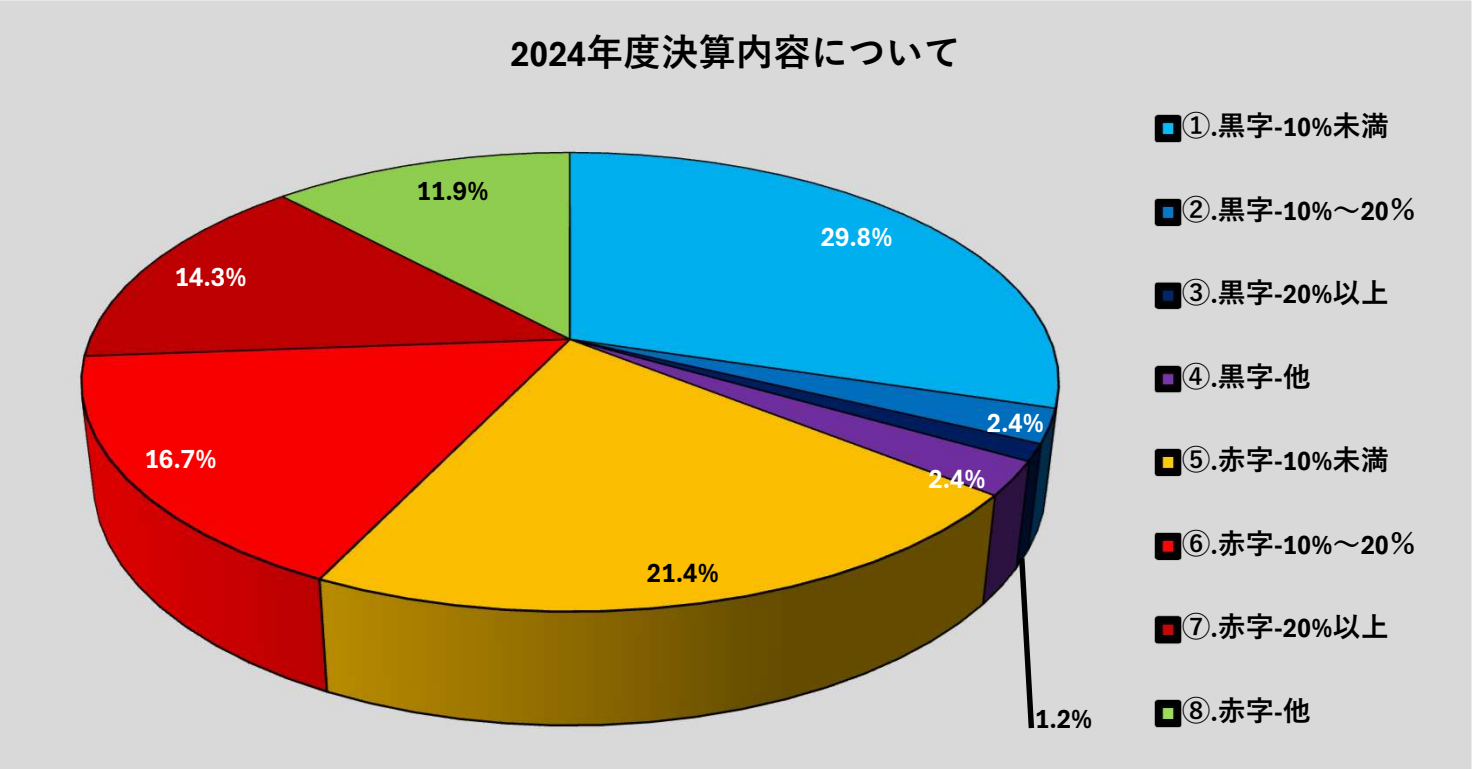
4.診療科目

①.内科系	28.2%
②.外科系	12.6%
③.整形外科	20.4%
④.透析	3.9%
⑤.泌尿器科(透析あり)	6.8%
⑥.泌尿器科(透析なし)	0.0%
⑦.眼科	5.8%
⑧.耳鼻咽喉科	1.0%
⑨.精神科	1.0%
⑩.産婦人科	13.6%
⑪.複数診療科	1.0%
⑫.その他	5.8%



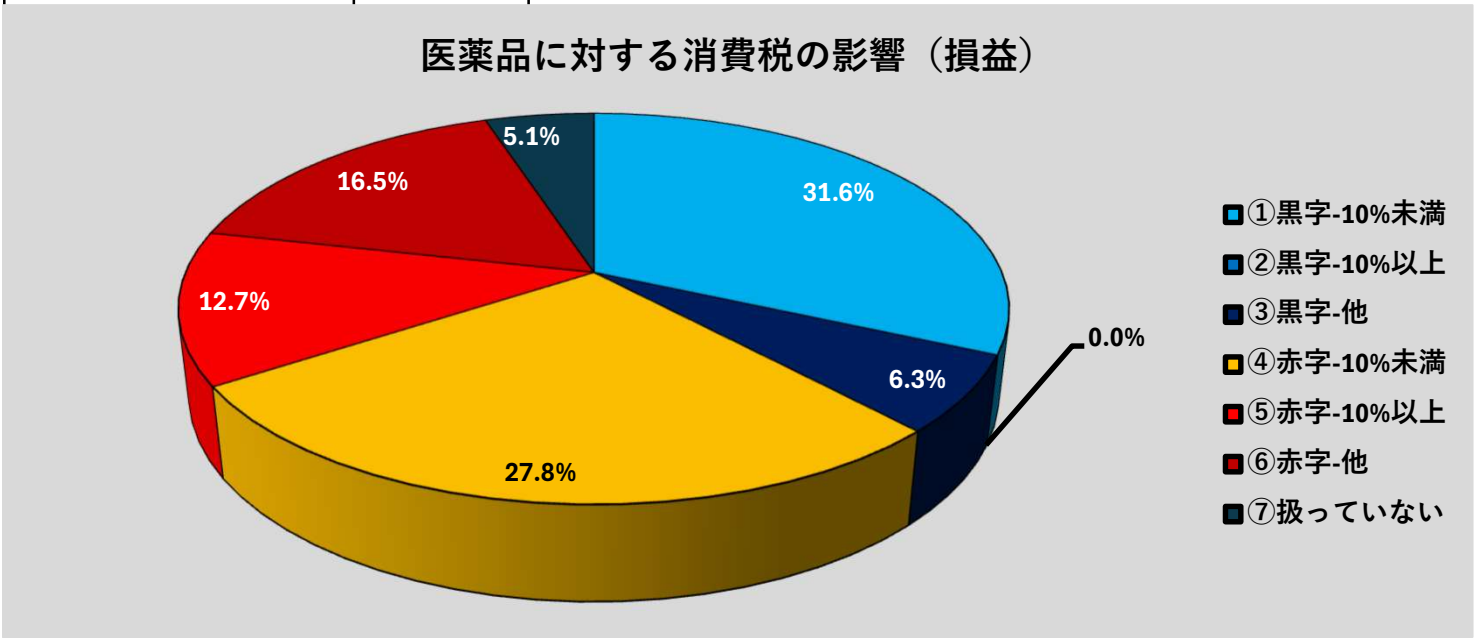
5.2024年度決算内容について

①.黒字-10%未満	29.8%
②.黒字-10%～20%	2.4%
③.黒字-20%以上	1.2%
④.黒字-他	2.4%
⑤.赤字-10%未満	21.4%
⑥.赤字-10%～20%	16.7%
⑦.赤字-20%以上	14.3%
⑧.赤字-他	11.9%



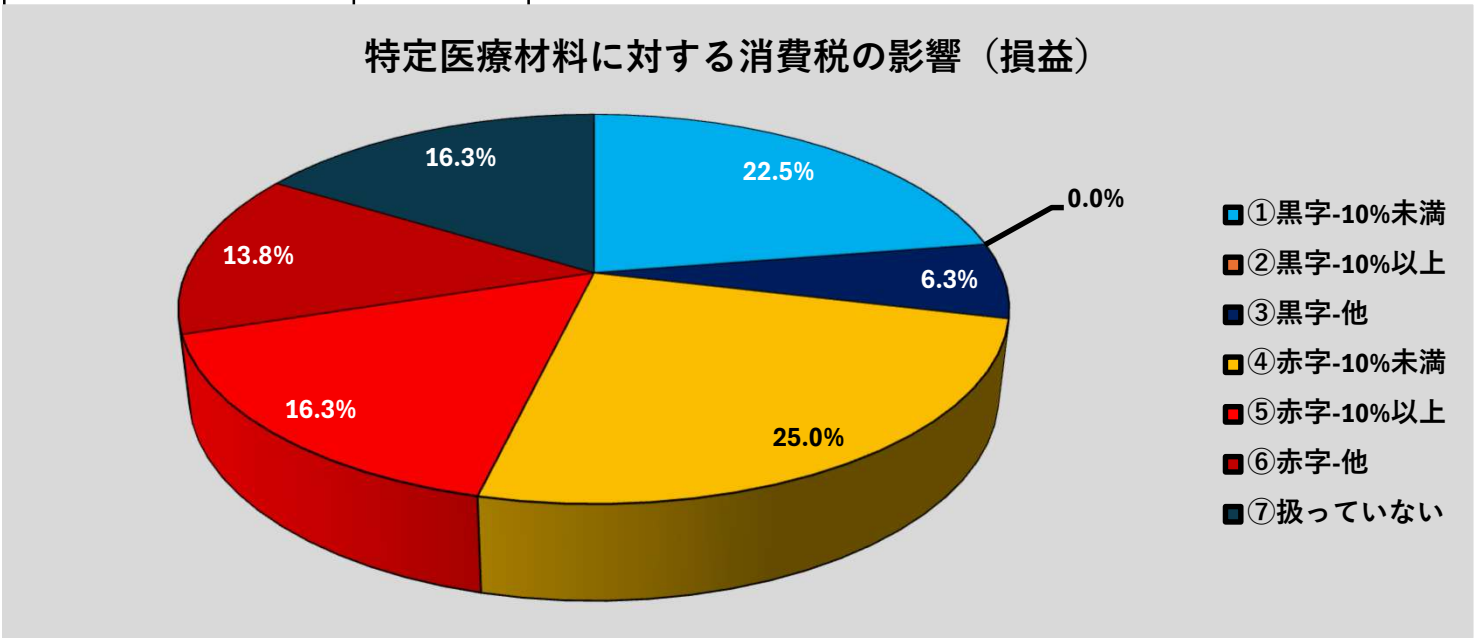
6-1.保険請求ができる医薬品に対する消費税の影響について（損益）

①黒字-10%未満	31.6%
②黒字-10%以上	0.0%
③黒字-他	6.3%
④赤字-10%未満	27.8%
⑤赤字-10%以上	12.7%
⑥赤字-他	16.5%
⑦扱っていない	5.1%



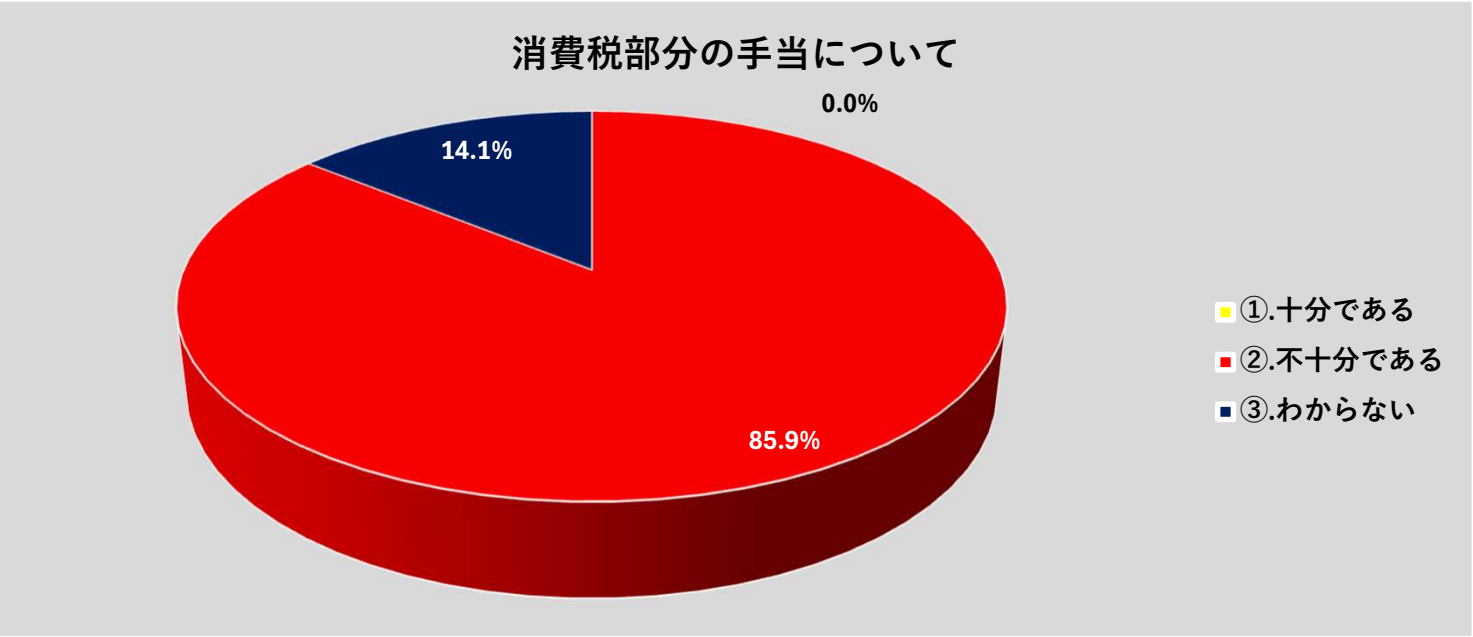
6-2.保険請求ができる特定医療材料に対する消費税の影響について（損益）

①黒字-10%未満	22.5%
②黒字-10%以上	0.0%
③黒字-他	6.3%
④赤字-10%未満	25.0%
⑤赤字-10%以上	16.3%
⑥赤字-他	13.8%
⑦扱っていない	16.3%



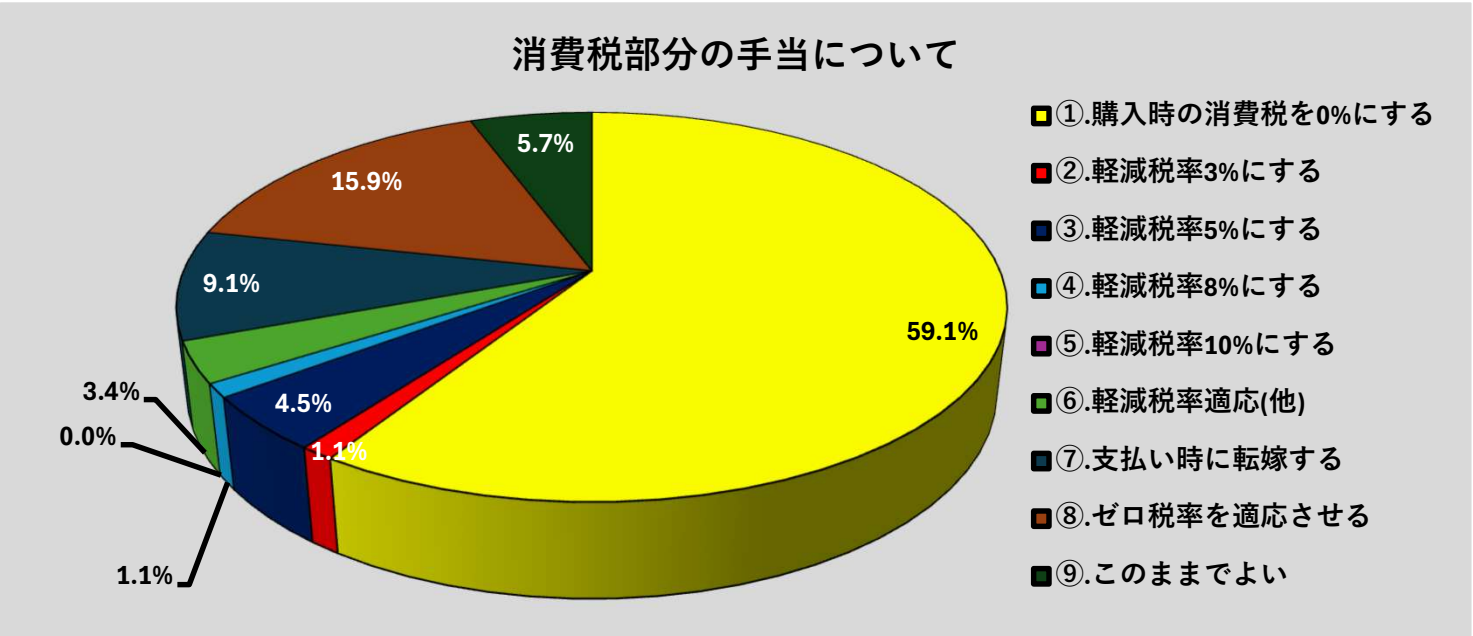
7.消費税部分の手当について

①.十分である	0.0%
②.不十分である	85.9%
③.わからない	14.1%



8.医薬品や医療材料の購入時にかかる消費税の今後の在り方について

①.購入時の消費税を0%にする	59.1%
②.軽減税率3%にする	1.1%
③.軽減税率5%にする	4.5%
④.軽減税率8%にする	1.1%
⑤.軽減税率10%にする	0.0%
⑥.軽減税率適応(他)	3.4%
⑦.支払い時に転嫁する	9.1%
⑧.ゼロ税率を適応させる	15.9%
⑨.このままでよい	5.7%



9.ご意見・ご要望(No.1)

医薬品、医療材料費の値上がり、医薬消耗品（マスクやグローブ、消毒用アルコールなど）の使用量の増加、医療機器の保守料金の値上がり、電気料金の値上がり、人件費の値上がり等々、支払は増加しても収益の増加の見込みはないので、今後の経営は見通しが立たない。
材料費の高騰が加速しており、運営をしていく上で、人件費を含め深刻な状況にある。地域において医療体制の医事を確保していくことは急務で、診療報酬を上げる、税負担の見直しを必要とするものと考えます。
医薬品等の消費税はゼロ税率が一番良いが、できなければ支払い時に転嫁すべき。診療報酬で手当するには無理がある。
特定医療材料については、仕入れの段階で赤字の品目もある。又、手技料に含まれる（管理料）ものもあり、利益を出せる状況ではない。元々、利益があった物についても、材料費、人件費の値上がりを理由に仕入れ価格も上昇している。
物価高の影響も医療材料仕入価格が上昇。医薬品に関しては出荷調整が多く、仕入れ値も上昇。人件費も上昇。経営自体がますます厳しくなってきています。
保険診療の原則が現物給付であることから、そのコストもその扱いとし、流通において課税すべきではない。
物価、人件費の上昇が止まらない現況において、「診療報酬と消費税」について早急に対応すべきと考えます。
特定保険医療材料は償還価格よりも高いものが多いため、手術や処置をすればするほど赤字（持ち出し）になることがほとんどです。どうにかして下さい。
ボイラーの耐用年数が超えようとしているが高額すぎて新調できない。経営を圧迫しない補助金を求めます。
院内処方を行っているが、仕入れの際、逆ザヤになる薬品もある。薬価の算定を増やして欲しい。卸売業者の値引きも少なくなってきている。
物品等の購入のときに消費税を支払、さらに医療機関として、消費税の確定申告と納税170万円あり。経営が厳しい中で、消費税負担も大きいため、なんとかしてほしい。
保険診療の原則が現物給付であることから、そのコストもその扱いとし、流通において課税すべきではない。
消費税も重要だが、労務単価上昇に伴い、診療報酬の増額改定が必要（赤字経営のため）。
薬剤の包装の入数が多すぎるので、個包装での販売や卸業者で分けて売ってくれると無駄がなくなる。
特定保険医療材料については扱っていないわけではありませんが、件数が多くない為、「ウ」を選択させて頂きました。